

**取扱説明書**

**ご使用前に必ずお読み下さい。**

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

URL <http://www.dyden.jp/network/>

**安全にご使用いただくために (使用上の一般注意事項)**

**指定用途以外には使わないで下さい!**

100BASE-TX の光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。また仕様項目を超えない範囲でお使い下さい。

**分解しないで下さい!**

取付け後カバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

**製品は大事に扱って下さい!**

落とすなどしたり、ぶついたりすると製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

**異常が起きたら直ちに使用中止!**

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

**条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい!**

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

**電波障害自主規制について!**

この装置は、情報処理推進機構電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要請される場合があります。

**本製品のご使用にあたって!**

本製品は、人命に関わる場合 (医療、航空、原子力、軍事等) や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。使いまし、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に被害が生じてても、かかる被害が直接的、間接的または付随的のもであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。お客様のおきま、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご留意願います。

大電株式会社 弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

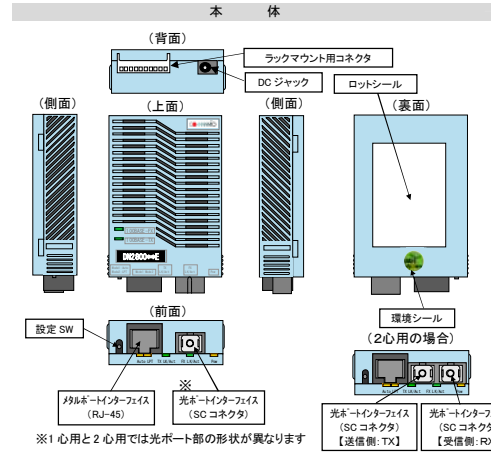
**警告**

- 交流100~240V以外で使用しないで下さい。指定電圧以外で使用するとは火災や感電、故障の原因となります。
- ACアダプタは専用のものを使用して下さい。火災や感電、故障の原因となります。
- ACアダプタはACコンセントに確実に差込んで下さい。ACアダプタの金属などが触れるとは火災や感電、故障の原因となります。
- 水につけたり、水をかけたりしないで下さい。濡電による火災や感電、故障の原因となります。
- 浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。濡電による火災や感電、故障の原因となります。
- 専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
- 静電気注意!  
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

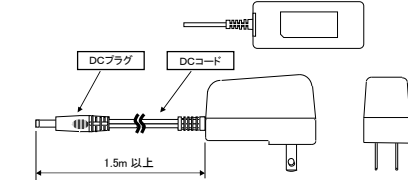
**注意**

- ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体を持って抜いて下さい。電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となる場合があります。
- 濡れた手で製品に触れないで下さい。故障や感電の原因となる場合があります。
- 本装置をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。ケーブルの被覆が溶け火災や感電の原因となる場合があります。
- 本装置を直射日光の当たった所や温度の高い所で使用しないで下さい。内部の温度が上がり火災や故障の原因となる場合があります。
- 放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。内部に触れ感電やけが、故障の原因となります。
- 放熱スリットを塞がないで下さい。スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- 本装置をほごりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。火災や故障の原因となる場合があります。
- 本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。落下などにより、けがや故障の原因となる場合があります。
- 本装置はクラス1レーザ製品です。クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件下で安全であるレーザです。
- 光コネクタ清掃のお願い。  
本装置は光ファイバの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合に、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光ラジヤ内部に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いいたします。

**1. 装置各部の説明/付属品**



**ACアダプタ**



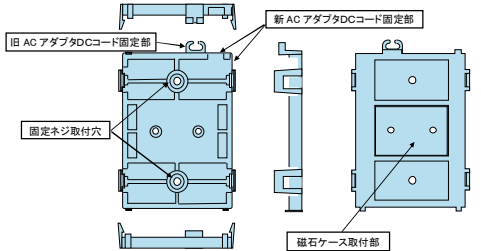
**別売品**

下記材料については、添付していませんので別にご準備下さい。  
 ツイストペアケーブル  
 TIA/EIA-568-Aに適合するカテゴリ5以上のUTPケーブルにRJ-45モジュラーコネクタを結線したものをご利用下さい。  
 ※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。  
 ※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。

コネクタ付光コード  
 【MMファイバ用 (G, WSG) の場合】  
 石英系マルチモード光ファイバ (1.3 μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz・km 以上のもの) にSCコネクタ (JIS C 5973 F04 形) を取付けたものをご利用下さい。  
 ※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上の PC 研磨をご利用下さい。  
 (平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります)  
 【SMファイバ用 (S, L, Z, WSG, WL, WX, WZ) の場合】  
 石英系シングルモード 1.31 μm 帯ゼロ分散形光ファイバ (SCコネクタ (JIS C 5973 F04 形) を取付けたものをご利用下さい。  
 WX, WZ, Zタイプは石英系シングルモード 1.55 μm 帯ゼロ分散形光ファイバ (DSFファイバ) も使用可能です。  
 ※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上の PC 研磨をご利用下さい。  
 (平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります)

固定用ねじ  
 本装置をねじで固定する場合には、呼び径3以下(ねじ頭径 6.5mmφ 以下)のねじを使用して下さい。  
 φ6.5mm 以下  
 φ3mm 以下

**固定用ホルダ**



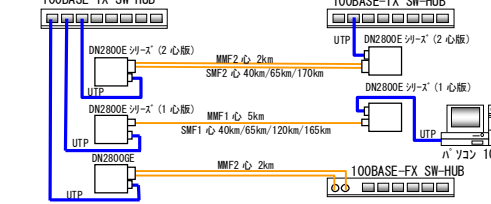
**磁石ケース & 取付ネジ (M2.5 × L3.2mm, 2本)**



**2. 概要**

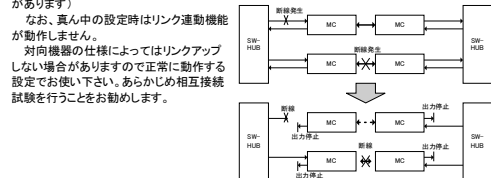
本製品はUTPによる100BASE-TXの信号を光信号 (100BASE-FX) に変換するメディアコンバータです。  
 ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。  
 本製品は、半二重通信方式には対応していませんので、全二重対応の機器 (SW-HUB, Router, NIC) との接続でご使用下さい。

**メディアコンバータ接続例**

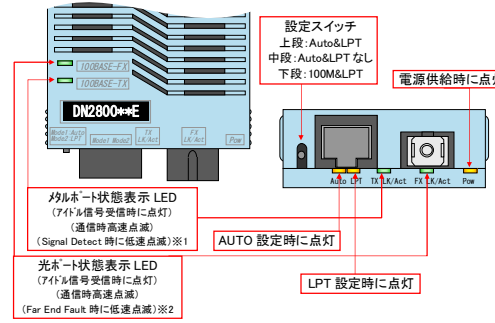


**【リンク自動機能について】**

本製品にはリンク自動機能 (LPT機能) があります。リンク自動とは、メディアコンバータ (MC) で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。  
 例えばSW-HUBのマルチポートラング機能を送送路のバックアップとして使う場合、この機能が無いと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。  
 リンク自動機能は対向 (UTP) 側機器の設定がAutonegotiationの時は上向き、又は対向側機器の設定が100m固定の時は下向きに設定します。この設定は、UTPを介して接続する機器の設定に合わせて下さい。(但し、一部SW-HUBではAuto&LPT設定でしかリンクアップしない場合があります)  
 なお、真ん中の設定時はリンク自動機能が動作しません。  
 対向機器の仕様によってはリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。



**表示 LED ・ 設定 SW**



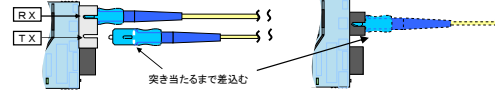
※1: Signal Detectは対向器から信号を受信している状態です。リンクアップ状態とは異なります。  
 ※2: Far End Fault 信号: 対向器からの光信号が十分なレベルにない場合、受光していないことを対向器側に伝えるために、Far End Fault 信号を送出します。対向器からの Far End Fault 信号を受信すると FX LK / Act LED が低速点滅しますので、障害の原因を切り分けるための手段として利用することができます。リンクアップ状態とは異なります。  
 たし、光側の対向器が 2800 シリーズ又は 5500 シリーズの場合は、LPT を ON に設定時のみ Far End Fault 信号を送信するため、LPT 設定時のみ受信できます。  
 例) ①LPT 設定時に光側の TX 側がリンクダウンすると、光側の対向器から Far End Fault 信号が送信され、Far End Fault 信号を受信して FX LK / Act LED が低速点滅します。光側の対向器はリンクダウン (FX LK / Act LED が消灯) となります。  
 ②2800 (Rev K 以降) の機器と LPT 設定で接続時に、対向の 2800 の UTP がリンクダウンした場合は、本装置の FX LK / Act LED が低速点滅します。対向の 2800 はリンクダウン (FX LK / Act LED が消灯) となります。

**3. ケーブルの接続**

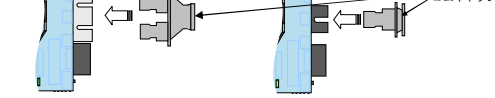
**光コネクタの接続**

【各シリーズ共通注意事項】  
 ①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を30mm以上確保して下さい。

②SCコネクタがロックされていることを確認して下さい。  
 ※SCコネクタが突き当たるまで奥に差込んで下さい。



③光コネクタを接続していない時には、ゴミが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。



**【1心用 (WSG, WL, WX, WZ) の場合】**

①対向側に同じシリーズ (もしくは相互接続性のあるシリーズの機器) の波長違いが接続されていることを確認し、本体に SC コネクタを接続して下さい。  
 ※DN2800WSG3E⇔DN2800WSG6E⇔DN5900WSG6E⇔DN5700WSG6E⇔DN8800WSG5E/GE⇔DN2800WSG3E⇔DN2800WSG6E⇔DN5900WSG6E⇔DN5700WSG6E⇔DN8800WSG5E/GE⇔DN2800WSG3E⇔DN2800WSG6E⇔DN5900WSG6E⇔DN5700WSG6E (※1)  
 DN2800WSG6E⇔DN2800WSG3E⇔DN5900WSG6E⇔DN5700WSG6E⇔DN8800WSG5E/GE⇔DN2800WSG3E⇔DN2800WSG6E⇔DN5900WSG6E⇔DN5700WSG6E (※1)  
 DN2800WL3E⇔DN2800WL6E⇔DN5900WL6E⇔DN5700WL6E⇔DN2800WL3E⇔DN2800WL6E⇔DN5900WL6E⇔DN5700WL6E (※1)  
 DN2800WX5E⇔DN2800WX6E⇔DN5900WX6E⇔DN5700WX6E⇔DN2800WX5E⇔DN2800WX6E⇔DN5900WX6E⇔DN5700WX6E (※1)  
 DN2800WZ5E⇔DN2800WZ6E⇔DN5900WZ6E⇔DN5700WZ6E⇔DN2800WZ5E⇔DN2800WZ6E⇔DN5900WZ6E⇔DN5700WZ6E (※1)  
 ※DN6800E シリーズ (FE モード時)、DN5520E (100m SFP 使用時) も同様接続可能です。  
 ※1: 対向器の仕様に合わせてご利用下さい。

## 【2心用(G, S, L, Z)の場合】

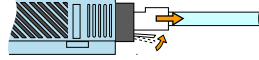
- ①対向側に同じ型番の製品(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)が接続されていることを確認し、本体にDCコネクタを接続して下さい。対向側のTX部と本体側のRX(本体右側部)、対向側のRX部と本体側のTX(本体左側部)と接続して下さい。
- ※DN2800GE※DN2800GE(DN-2800G) or DN5800GE(DN-5800G) or DN5700GE or 100BASE-FX機器  
 DN2800SE※DN2800SE(DN-2800SE) or DN5800SE(DN-5800SE) or DN5700SE  
 DN2800LE※DN2800LE(DN-2800L) or DN5800LE(DN-5800L) or DN5700LE  
 DN2800ZE※DN2800ZE or DN5800ZE or DN5700ZE  
 ※DN8600Eシリーズ(FEモード時)、DN5520E(100M SFP使用時)も同様に接続可能です。

## UTPケーブルの接続

- ①RJ-45モジュラーコネクタを取付けたUTPケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



## A C アダプタの接続

### 【旧ACアダプタ(白地に黒文字シール/木俵DCコード品)の場合】

- ①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面部(旧ACアダプタDCコード固定部)にDCコードを引掛けて下さい。
- ※ケーブルを縦(細い)方向にした状態で固定部に挿入し、ケーブルを90度回転させると抜けなくなります。

- ②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
- ※DCプラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

### 【新ACアダプタ(黒地に白文字シール/編成DCコード品)の場合】

- ①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部(新ACアダプタDCコード固定部)にDCコードを引掛けて下さい。

- ②DCプラグを本体背面のDCジャック部に接続します。
- ※DCプラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

最後に電源プラグ(ACアダプタの本体部)をACコンセントに確実に差込んで下さい。

※ACアダプタは専用のものをお使い下さい。

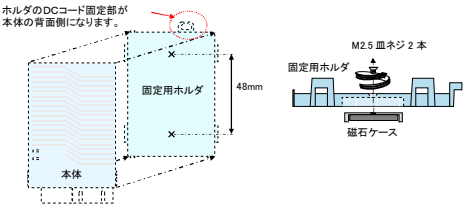
**編成DCコードを木俵DCコード固定部に取付けると抜ける場合がありますので注意下さい。**

## 6. 装置の取付け

本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。金属部に磁石で固定する場合には、付属の固定用ホルダに磁石ケースを取付けて下さい。(出荷時に取付け済み) 壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを外して堅牢な壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

### 【木ネジ固定時の下穴位置】

### 【木ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引掛けてから反対側を押込んで下さい。

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪(前後2箇所)を外しながら本体を引抜いて下さい。

## 7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

### 【Pow LED が点灯しない】

- 確認①: ACアダプタは専用のものを使用していますか?
- 確認②: ACアダプタの本体部はコンセントにきちんとと元まで接続されていますか?
- 確認③: ACアダプタのDCプラグ部はメディアコンバータ本体のDCジャック部にきちんとと根元まで接続されていますか?

### 【TX LK/Act LED が点灯しない】

- 確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか?
- 確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか?
- 確認③: 接続相手の機器の設定は「Autonegotiation」もしくは「100M・全二重」になっていますか?
- 本装置は100M・全二重でしか動作しません。Autonegotiationに対応していますが、ご本来にAutonegotiationの失敗により接続相手の機器が100M・全二重以外の状態になることがあります。その場合には、再度モジュラーコネクタを抜き差しして下さい。
- 確認④: リンク変動(LPT)設定にしている場合には、UTP側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。
- 確認⑤: UTPケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか? 代わりにUTPケーブルで接続して下さい。
- 確認⑥: 接続相手機器の設定がAuto MDI-X設定になっていませんか? 本装置がLPT設定の場合に相手機器がAuto MDI-X設定の場合だとリンクアップするのに時間がかかる場合があります。設定を変えるか、Auto MDI-X設定をキャンセルして使用して下さい。
- 確認⑦: 低速点滅していませんか? 対向機器から信号を受信しているSignal Detect状態になっています。UTPポートがリンクアップ出来る状態にならないと発生します。UTPポート、ケーブルの状態をご確認下さい。LPT設定時には光ポート、光ケーブルも確認下さい。

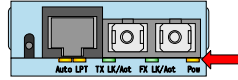
### 【FX LK/Act LED が点灯しない】

- 確認①: 光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか? コネクタの端面を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内部に付着している可能性がありますので光トランシーバ内部の清掃を行って下さい。(清掃が不可能な場合は一旦返却下さい)
- 確認②: 接続相手機器の電源は入っていますか?
- 確認③: 接続相手機器は100BASE-FX対応機器ですか? 【Gタイプ】 Gタイプ以外は同一機種(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)と接続して下さい。
- 確認④: リンク変動(LPT)設定にしている場合には、UTP側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。

## 4. 接続状態の確認

### 電源の確認

添付のACアダプタをACコンセントに差込み、DCプラグ本体に接続した状態で本体表示LEDの「Pow」が黄色に点灯していることを確認して下さい。

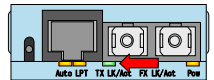


### UTPケーブルの確認

UTPケーブルを100BASE-TX対応の機器(パソコンルータースイッチングハブ等)に接続し、本体表示LEDの「TX LK/Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。

※UTPを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に接続していないと確認できません。



### 光ケーブルの確認

光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示LEDの「FX LK/Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。

※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※LPT設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれUTPで接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に接続していないと確認できません。



確認⑤: ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか? L/Z/WG、ML/WX/WZに関しては伝送路にエアギャップ式の光減衰器(アッテネータ)を挿入しないで下さい。伝送路のコネクタ接続についてはPG研磨以上の反射減衰特性を持つコネクタをPC接続して下さい。

光伝送路が光許容損失値内であることを確認して下さい。

1心用(WSG、WL)タイプは1.3μm及び1.5μmの波長帯を用いた光伝送を行いますので、光伝送路は1.3μm帯/1.5μm帯のいずれの波長帯においても光許容損失値内である必要があります。

確認⑥: 低速点滅していませんか? 対向機器からFar End Fault信号を受信している状態になっています。光ポート、光ケーブルの状態をご確認下さい。LPT設定時はUTPポート、UTPケーブルもご確認下さい。

### 【Auto/LPT LED が点灯しない】

- 確認①: 設定SWの位置がきちんとセットされていますか? 再度設定SWを上下に動かしてみして下さい。
- 確認②: SNMPモジュール側で設定していませんか? ラックオプション(DNHD12E等)に実装されている場合、SNMPモジュールからの設定が有効になっていると、SNMPからの設定が優先されますので、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMPモジュール側で設定を解除してみて下さい。(詳しくはSNMPユニットの取扱説明書をご確認下さい)
- ※LPT設定時にリンクアップしない場合は、設定をAuto&LPT又は100M&LPTに切替えてみて下さい。
- 対向側の機器が100M固定設定でもAutonegotiation信号を送信している場合がありますのでLPT設定が正常に動作する設定でお使い下さい。(対向装置の仕様により対向装置の設定と同じにしない方が良い場合があります) ※リンク変動が必要な場合は、Auto&LPT無しの設定でお使い下さい。
- リンクアップしない場合は、100M&LPT有り設定でリンクアップするか確認し、正常にリンクアップする設定でお使い下さい。
- (対向装置の仕様により100M固定設定でしかリンクアップしない場合があります) ※上記設定は、全てUTP側に接続する機器の仕様に合わせて全二重でリンクアップするようにお使い下さい。
- (全ての機器をLPT設定で使用する場合は、対向側の機器仕様に合わせて下さい。100M&LPTのAuto&LPT設定が必要な場合もあります)
- ※設定SWはゆっくりと切替えて下さい。
- 設定SWの切替えずにはやく行うと設定を正常に読込めない可能性があります。表示LEDが順次変化するのを確認しながら切替えて下さい。設定SWを上へ切替える時も確実に真ん中の位置に一旦入ったことを確認してから切替えて下さい。

### 【通信エラーが発生する】

確認①: 光コネクタ及び光トランシーバ内部の端面は汚損がないですか? コネクタの端面及び光トランシーバ内部を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。光レバが問題なくとも、光トランシーバ内に異物が存在していると、反射が発生しエラーが発生する可能性があります。特に心版については影響を受けます。

## 5. SWの設定及び注意

### SWの設定

- ①対向機器がAutonegotiation設定でLPT動作が必要な時は設定SWを上向きにして下さい。
- Auto及びLPT表示LEDが黄色に点灯することを確認して下さい。
- ②対向機器が100M・全二重固定設定でLPT動作が必要な時は設定SWを下向きにして下さい。
- LPT表示LEDのみが黄色に点灯することを確認して下さい。

- ③対向機器が100M全二重固定又はAutonegotiation設定でLPT動作が不要な時は設定SWを真ん中にして下さい。
- Auto表示LEDのみが黄色に点灯することを確認して下さい。

※別売のサブラック(DNHD12E等)にメディアコンバータを実装して、オプション品「SNMPユニット」から設定を行っている場合には、手動によるSWの設定が有効になりません。

※SWの設定が難しい場合は、シャープペン等の先の細いものを用いて切替えて下さい。

※LPT設定時は、UTP対向側の機器と同じ設定でもリンクアップしない場合がありますのでその時は全二重でリンクアップする設定の組み合わせでご使用下さい。

### 設定時の注意

- ①UTP対向側の機器がAutonegotiation設定(LPT設定含む)時には必ず本装置の設定をAutonegotiation(LPT設定含む)設定にして下さい。
- ※設定が異なる場合はリンクアップするのに時間が掛かったり、リンクアップしなかったり、通信異常が発生する可能性があります。
- ②LPT設定時は対向接続したメディアコンバータの設定もLPT設定にして下さい。
- ※設定が異なる場合もリンクアップすることができなくなるためLinkAggregation等のトランッキング用途で正常に動作しない可能性があります。

## 環境対応 100BASE-TX/FX メディアコンバータ DN2800E シリーズ 保証書

ロットNo. S/N (右コントロールに印刷)	
お客様(御社名)	
お名前(ご担当名)	
お客様住所	
ご購入日	年 月 日
保証期間	ご購入日より5年間(センドバック式)
販売店	
販売店住所	
備考	

\*保証外条件  
 保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。  
 1. 取扱説明書に記載の使用法や注意事項等をお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷  
 2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷  
 3. 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地災及び指定外の使用電圧による故障及び損傷

『営業窓口』大電株式会社 ネットワーク機器部 営業課  
 コールセンター(デジカガナビ)窓口 ☎ 0120-588-545 (携帯:PHSにも対応) e-mail: commnio@dyden.co.jp

東京: 〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-9 ツインビュ-御茶ノ水3階 TEL (03)5684-2100【代表】  
 名古屋: 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-15-20 ie丸の内ビルディング4階 TEL (052)211-1888【代表】  
 大阪: 〒541-0041 大阪府中央区北浜4-7-28 住友ビルディング2号館1階 TEL (06)4229-3355【代表】  
 九州: 〒780-0124 佐賀県三養基郡上峰町増2100-19 TEL (0952)52-8546【代表】